
この部屋での思い出

未知未知

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この部屋での思い出

【Nコード】

N1733G

【作者名】

未知未知

【あらすじ】

私は人間で、生きており、思い出があり、空気があり、室内と室外があり、縛られている。

そう、私は考えている。

外部から取り込まれる情報は私にとって、情報でしかない。

恐らく、情報が私自身になるという現象は未来永劫起こらないのではないだろうか？

それは私自身ではないのだ。

私は何も考えていない。

以前は、都市に出て炭鉱掘りをしていた。

私は人間なので、自分で決めたのだ。

田舎を飛び出し街に出た私がやつの念いでありついた職が、鉱山でスコップを振り回すものだったとは、今考えるとなんと拍子抜ける印象を与えるような話だ。

まず鉱山の臭いについてだが、山や土の臭いというのは特有なもので、働き初めの私には些か刺激臭に感じられた。

それは、慣れる事が無いのだ。私は気にしなかったが、時間というものには恐ろしいので、あの臭いはやはり私に染み付いたようだ。

季節は巡り、私は四季を存分に感じ取った。休日、私はこの部屋でよく青空を見上げて昼寝したものだし、山でする行為は、例えばそれが下品なものであったとしても、自然や地球との繋がりを感じずにはいられないものだ。

私の上司、炭鉱会社の部長にあたる人物から私を感じ取った情念は、今でもぼんやりと思い出されるものだ。彼の顔を思い出すと、炭鉱の風景と四季、青空、夕焼けや鳥の鳴き声、豊富な緑、鎖の縛り、それらを一気を感じる。

次に鎖についてだが、『枷^{かせ}となる鎖の数は、死者の罪の重さに応じて決められる』という話が異国にあるらしい。縛り上げるというのは、徐々に徐々に行われる行為なのだ。そして私に求められたのは、まず大きなロープでの事だ。

仕事が終わりに、部長から言われた通りに自宅でロープを見つめてみると、徐々に私は縛られていった。時間というものは恐ろしいので、これを毎夜続ける内に私は違和感を忘れていった。

(略)

私がこの部屋に監禁されたのは、二年前の事だ。

私は考える。

それ以外の事は考えられないのだ。

この部屋には何も無い。言うなれば全てが揃っているという事だ。与えられた全てが。

今では自分がドSなのかドMなのかわからない始末である。

私はこうして試行錯誤をし、考えず、考えずにはいられない。鎖は鎖でしかないのだろうか？私には、この鎖が自分自身に感じられるのだ。そして空気が私を追い立てる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1733g/>

この部屋での思い出

2011年1月11日15時11分発行